

日本レンズ協会ニュースレター No. 33

2017年10月1日

日本レンズ協会会长 浅井 雅志
日本レンズ協会副会长 田部井 世志子

会員の皆さんにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度の日本レンズ協会第48回大会は、7月22日（土）、23日（日）に東京の東洋大学で開催され、成功裏に終了しました。例年のように、力のこもった発表、それにシンポジウムやワークショップでの活発な議論が交わされたようです。私が急に入院・手術となったことで大会に出席できず、皆様には多大なご迷惑をおかけしたことをまずお詫びいたします。というわけで、今回は大会の内容の概観は省略させていただきます。

この2日間の大会のために、会場設営と大会運営にご尽力いただいた倉田雅美先生、石和田昌利先生ならびに東洋大学のスタッフの皆さん、会計担当の福田圭三先生をはじめとする関係者の方々に、心よりお礼申し上げます。

すでに多くの会員のさんはご存知かと思いますが、昨年度から今年度にかけて起きた大きな変更について、もう一度お知らせしておきます。

それは、会員減少に伴って協会の資産が深刻なレベルで減少している問題についてです。昨年の大会の総会でもお知らせしましたが、最も大きな支出は学会誌制作費です。そこで、昨年度まで事務局と学会誌の発行をお願いしていた国書刊行会と相談をするのと並行して、新たな発行所を探した結果、浅井の勤務大学と連携をしている田中プリントに変更することになりました。これによって協会資産の減少は当面防げそうです。

しかしこれによって発生する問題もかなりあります。一つはバックナンバーの保管です。これについては、各号の冊数をかなり絞って事務局、つまり副会长のところへ送ってもらい、任期中保管してもらうという方法をとろうと思います。これはもちろん、事務局が変わったときに移動させなければならないことを意味します。具体的には、各号10冊（17号（2007）のみ3冊）を副会长に送ってもらい、副会长が管理する。残りは処分することにいたしました。処分の前に、4月末締め切りでバックナンバーがほしい人は連絡をということで呼びかけところ、数名の希望者があり、郵送しました。

また、この変更に伴い、これまで国書で引き受けていた投稿論文の受付や入会、退会の受付などの作業がすべて事務局の仕事になります。そこで、事務局のメンバーの仕事の整理し、役割を分担しました。特に、庶務、広報担当者には新たな仕事の依頼をしましたが、こころよく引き受けくださいました。

これまで国書に発送をお願いしていたニュースレターのあり方も一新しました。これま

で通り基本的に年2回発行しますが、秋号は協会のホームページに掲載し、メールにより掲載したことを周知します。そしてメールアドレスのない方々にのみ郵送するという形にしたいと思います。春号は大会のプログラムと一緒に全員郵送します。つきましては、メールアドレスの変更の連絡、新規登録をどうぞよろしくお願ひいたします。

以上、大きな変更を私の代で行うことになり、関係者には多大なご苦労をおかけすることになると思いますが、良い結果を生み出すことを期待しています。

次に、総会での審議および承認事項をご報告申し上げます。

1. 前会長の顧問就任について

慣例では前会長は自動的に顧問に就任していましたが、前会長の新井先生から、前会長の顧問就任については「退職後に役員会の議を経て顧問に就く」としてはどうかと提案がありました。理由は、会員が減少傾向にある中、①顧問が多くなりすぎる、②顧問になると会費が少なくなる、等です。審議の結果承認されました。当面はこれを慣例として、申し送り事項に入れることにしたいと思います。

2. 2016年度会計決算報告と2017年度予算案

会計の福田圭三先生からそれぞれ報告と提案があり、承認されました。福田先生、ならびに会計監査の加藤洋介先生と星久美子先生、誠にありがとうございます。

3. 『D.H.ロレンス研究』投稿規定変更

以下の3点の変更が承認されました。

1. 字数
2. 書式
3. 著者進呈の冊数 20部→10部

詳しくは協会のHPをご覧ください。（http://dhlsj.jp/dl/bosyu_28.pdf）

4. 『D.H.ロレンス研究』のウェブ掲載（科学技術振興機構によるJournal@rchive事業による電子化ならびに公開）について

2007年度までこの電子化は比較的簡単で、すでに協会のHPに掲載されていますが、2008年度以降は方法が変わり、かなり困難な作業を要することになりました。そこで、2008年度から2016年度（26号）までは、庶務担当者が論文毎ではなく冊子毎にPDFにファイル転換し、それを広報担当者がHPにアップすることになりました。また2017年度（27号）からは田中プリントから無償でデータをもらい、それをPDFにしてHPに載せることにしました。その際、投稿規定に版権の問題などはすでに書いてあるので、執筆者から電子化（公表）することの承認をとる必要はないことを確認しました。

5. 日本英文学会の HP のわが協会へのリンクを更新しました。

6. 熊本エリアの会員に対する会費免除の特別措置について

HP の「事務局からのお知らせとお願ひ」にも掲載していますが、東日本大震災の時、日本ロレンス協会では、東北エリアの会員の会費を 1 年分免除しました。そこで昨年の熊本大震災に関しても同じ措置を、熊本の会員に適用することにしました。自己申告制で、役員会で報告することにします。

7. 役員会、執行部のメンバーについて

現行の会則が、協会の実際の運営と齟齬するところが出てきたので、以下の点について審議し、承認されました。

- ・編集委員長を役員会のメンバーに加える。(第 10 条)
- ・会計を執行部のメンバーに加える。(第 16 条)

8. 協会ホームページの更新について

協会ホームページを更新しました。新サイト URL は、<http://dhlsj.jp/> です。

9. 会計監査の変更について

加藤洋介先生に、任期を一年超えてやっていただきました。どうもありがとうございました。今年度より、石原浩澄先生に担当していただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

10. 次回開催校と大会日程

井出達郎先生のご尽力により、第 49 回大会（2018 年）は仙台の東北学院大学にて開催することになりました。日程については、現在 6 月末から 7 月初旬あたりで調整していますが、会場校の都合で、最終決定は来年初頭になりそうです。井出先生、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは皆さん、来年の夏に仙台でお会いしましょう。

お知らせ

1. 前号でお知らせした、北米ロレンス協会・英国ロレンス協会主催の第 14 回ロレンス国際学会が開かれたので、簡単にご報告いたします。場所はロンドン、期間は 2017 年 7 月 3 日ー8 日、テーマは “LONDON CALLING: LAWRENCE AND THE METROPOLIS” でした。参加者総数は約 80 名で、会場は大会のディレクターを務めた Catherine Brown が所属する New College of the Humanities および近隣の施設でした。Bloomsbury の中心にある Bedford Square に面したこの大学はかなり小規模で、大会はきわめて家庭的な雰囲気の中で進行しました。またこの地域にはロレンスゆかりの場所が多く、それらを John Worthen や Catherine Brown らが案内してくれました。それ以外にも Hampstead 周辺へのウォーキング・ツアーもあり、また最終日には Eastwood や Mountain Cottage などを訪ねる一日ツアーもあって、なかなか充実した大会でした。日本からの参加は武藤浩史氏、岩井学氏、井出達郎氏、発表はされませんでしたが新井英永氏、そして浅井雅志でした。

発表は、テーマのロレンスとロンドンとの関わりをさまざまな角度から検討するものが多くたものの、それ以外のものもたくさんありました。質疑応答も相変わらず活発で、休憩時間や昼食時に目の前の Bedford Square でその続きをする姿が見られました。院生を含む若手の研究者もかなり参加し、面白い発表をしていたので今後に期待がもてそうです。

ロレンスの研究団体や学会は当然のことながらロレンスを研究対象にしているのですが、近年の発表を聞くと、これはわが協会にも言えることですが、ロレンスを軸にして思考／嗜好の方向性が広い範囲に拡大しており、刺激的であると同時にいくのが大変だと感じました。しかしそれこそがこうした国際学会に参加する醍醐味でもあるので、ぜひ多くの協会員がこういった会に参加され、刺激を受けられることを願っています。

2. 韓国ロレンス協会との連携について

先日、韓国ロレンス協会から浅井に、10 月 28 日にソウルで開催される年次大会に来て話をするよう要請がありました。せっかくのお誘いなので受けることにしましたが、その際、かつて行われていた日本ロレンス協会との研究交流をぜひ再開したいので、それについても話し合いたいとのことでした。これについて、会員の皆様のご意見やご要望を聞かせていただければ嬉しく思います。